

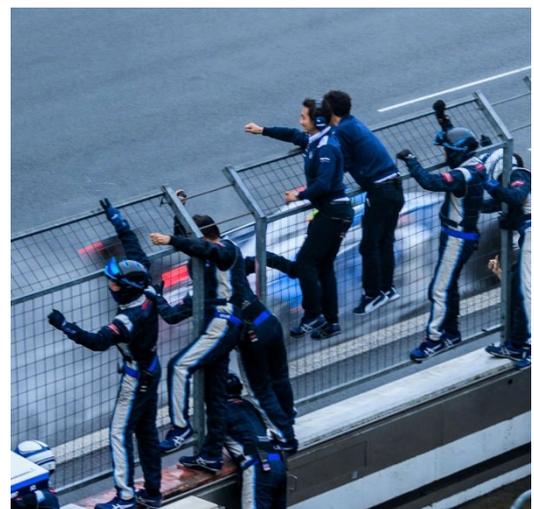
2019年 スーパーフォーミュラ 第4戦

富士スピードウェイ

2019年7月13日～7月14日

TCS中嶋レーシング 9年ぶりに優勝！

ルーキー アレックス・パロウ選手がポールトゥーウィン！



チェッカーの瞬間 チームスタッフがピットレーンの柵に登り、パロウ選手を迎え、祝福！

#### ■Qualifying／予選

2019年 スーパーフォーミュラ 第4戦は、富士スピードウェイを舞台に、7月13日（土）予選、14日（日）決勝がいずれも梅雨空のもと開催された。

予選はQ1、Q2ともに#64 アレックス・パロウ選手、#65 牧野任祐選手は難しいコンディションの中、確実な走りでも通過した。むかえたQ3は#65 牧野選手はウォームアップを行なったあとマシントラブルでアタックが出来ないままマシンを止め、終了することになった。一方の#64 パロウ選手は強まった雨にも関わらず、1分36秒167をたたき出す渾身のアタックで、自身初となるポールポジションを獲得。



ポールポジション獲得後のアレックス・パロウ選手

## ■Race/決勝

むかえた決勝日、朝から生憎の雨模様でしたが、決勝スタート前に小雨となり回復するかと思われた天候も、決勝スターティンググリッドに着いた頃には完全にウェットコンディションとなり、13時45分にセーフティカースタートで決勝レースはスタートした。3週のセーフティカー先導の走行の後、4周目から本格的にレースがスタートした。PPからスタートの#64パロウ選手はヘビーウェットの難しいコンディションの中、懸命にマシンをコントロールしながら後続のマシンとの差を広げていく。15周を過ぎるころには2位のマシンに10秒以上の差をつけて走行。燃料の給油を行わない作戦の中嶋レーシングは、途中燃費を管理しながらペースダウンをするなど、一時は7~8秒差まで2位との差が縮められたものの、ピットとドライバーの無線でのやり取りは毎週のように続けられた。その後、燃費走行の甲斐あって最後まで燃料は大丈夫となったあとも、難しい路面コンディションということもあり、丁寧にマシンコントロールをして走行した#64パロウ選手は、途中 何度かコースオフをするも大事には至らず、一度もトップの座を譲ることなく、参戦4戦目にして初優勝を飾った。

中嶋レーシングとしては、2010年開幕戦以来の実に9年ぶりのトップチェッカーとなった。

一方、8番手スタートの#65牧野選手は、途中11番手にポジションダウンするも、最終的に10位でチェッカーを受けた。牧野選手は開幕戦でポールポジションを獲得するなど、随所でルーキーとは思えない“速さ”を披露しているだけに、次戦以降の巻き返しが期待される。



#64パロウ選手



中嶋総監督とパロウ選手



優勝した#64 パロウ選手



トップチェッカーを受ける#64 パロウ選手・・・Congrats！！



#65 牧野選手 予選 Q3 でトラブルでアタック出来なかったことで流れが変わり、決勝での追い上げも及ばず  
“速さ” はみんな知っている、誰よりも一番悔しいのは本人だろう、絶対勝てる！ がんばれ、マキノ！！



以下、中嶋レーシング レースレポートより引用

総監督：中嶋 悟/Satoru Nakajima

「本当にうれしいです。パロウは昨日に続き、難しいコンディションのなか、うまく走ってくれました。何年ぶり？というぐらい優勝が遠のいていたので、このうれしさを忘れないうちに近々もう 1 回味わえるようにしたいですね。牧野は残念でしたが、この後も引き続き 2 台協力して頑張っていきます。たくさんのご声援をいただき、ありがとうございました」

#64：アレックス パロウ/Alex Palou

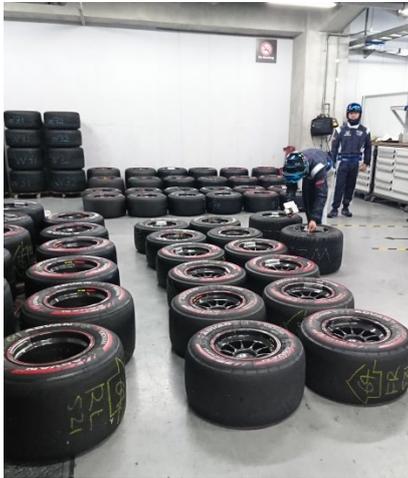
「The race was tricky because we had to manage fuel consumption as we wanted to go without stopping. I had really good communication with engineers, so it was an amazing day. I would like to win again at Motegi, but every time we arrive at a new circuit, it is a different story, so we have to continue working and try to win as many races as possible till the end of this season.」

「ストップなしで行きたかったので燃費を管理しないといけない状況でレースは油断のならないものでした。エンジニアと良いコミュニケーションが取れていたため、素晴らしい日になりました。もてぎでも勝ちたいですが、新しいサーキットに行く時はまた別の話なので、切磋琢磨し続けて、シーズン終了まで出来るだけたくさん勝ちたいと思います」

## #65：牧野 任祐／Tadasuke Makino

「レースウィークを通じて、予選が全てだったと思います。状況が予測と違っていたので、予選でもっと順位をあげていれば前からスタートでき、もっとクリアなところで走っていたと思います。次戦のもてぎも頑張ります」

### ■PHOTO GALLERY



ドライタイヤも用意しましたが出番なし 1～3位のマシンは車両保管



PIAA 製 LED オーバーテイクランプは全車に装着  
昨年までの SF14 マシンでは、5個の LED ランプが装備され、1レースで 20 秒×5回 システムを使用出来たが、今年は一体式の LED で合計 100 秒で何回でも使用可能なシステムに変更。ただし一度使用すると 100 秒間は使用出来ない仕組みで、ドライバーの駆け引きが面白い！



「ギザギザ秘密兵器」…ほかのチームも付け始めたので情報解禁  
空気の流れがいらしいです！



残量 100～21 秒・・・グリーン 20 秒以下になるとレッドになる